



GenFIT実施レポート

～株式会社 三友農場（新得町）～

今回は2022年よりGenFITをご利用いただいている三友農場の牛群管理・繁殖を担当されている取締役の鳥本純平さんにお話を伺いました。



繁殖に力を入れています！

現在、三友農場では役員3名、従業員5名の計8名で約500頭（うち経産牛約250頭）を飼養されています。経産牛1頭あたりの乳量は約11,000kg、かつ空胎日数は120日。妊娠率や発情発見率等の繁殖成績も「成績良好」を示しています。
（↓牛群検定WebシステムDL 総合グラフより全道比較）



▲取材を受けてくださった鳥本純平さん

農家名：株式会社 三友農場 農家コード：		2025年05月検定			
		←要改善	中央値	成績良好→	チェックポイント
生産	経産牛1頭あたり年間乳量				出荷率に関係、能力・繁殖成績が影響
	305日間補正乳量（初産）				成年換算値、初産の能力・管理指標
	305日間補正乳量（2産以上）				成年換算値、2産以上の能力・管理指標
	在籍1日1頭あたり乳代収入				総乳代/出生後日数（過去2年の経産牛）
乳質	バルク体細胞数（千/ml）				バルクの加重平均値（過去1年）
	バルク体細胞/検定体細胞（比率）				出荷・廃棄の状況を鑑察（全牛検定時）
	リニアスコア2以下（比率）				乳房の健康な牛の比率
	1頭あたり乳房炎損失（円/月）				乳房炎で低下した泌乳量×乳価（円）
	除箱理由「乳房炎」の比率				乳房炎で低下した牛比率（過去1年の除箱）
繁殖	空胎日数				受胎に要した日数平均（受胎牛のみ）
	200日以上 空胎割合				長期不受胎牛の割合（空胎日数の集計外）
	100日以上 未授精割合				不受胎牛のうち、授精できない牛の割合
	妊娠率				発情発見率×受胎率で計算する指標
	発情発見率				授精回数×繁殖上の発情期間の数
	初回授精 受胎率				繁殖機能的な要因、授精開始時期が影響
	2回目以降 受胎率				授精タイミング、栄養不足などが影響
	初回授精開始日数				初回受胎率と併せ、空胎日数への影響大
	初産分娩月齢				繁殖期の管理、育成技術の指標
	除箱率（乳用売却を除く）				生産効率の低下要因、除箱理由を確認
疾病関連	分娩後60日以内の死産率				産前産後トラブルの発生状況をみる
	死産発生率				牛群の産乳量、産子数の低下に繋がる
	初回検定 高BHB（%）				分娩後に潜在性ケトosisが疑われる牛の比率
	50日以内 乳脂率5%以上（%）				分娩前後の体脂肪動員が顕著な牛比率
	100日以内 乳蛋白率2.8%以下（%）				泌乳前期に栄養充足が低い牛の比率

繁殖管理の秘訣をお尋ねすると「力を入れています!」との力強いお言葉。お父様が繁殖のスペシャリストだったそうで、「親が引退する前に一緒に働けて、見るべきポイントや注意点を直接見聞きできたことが大きい」とおっしゃいます。朝と昼の見回りはもちろんのこと、少しでも怪しいと思ったら授精師さんに手を入れてもらい状態を都度確認。世代交代をされた現在では、従業員の方々も増えたことから首装着型センサーを導入し、発情の通知が来ている牛たちをチェックしに行くのですが、センサーでは通知が来ていなくても鳥本さんの目では気になる牛もちらほら。センサーはもちろん便利ですが、頼りにはしつつもプラスアルファで自分の目で見ることの重要性をより感じていて、その時の牛の状態や出血の有無、粘液の色などポイントとなる情報を従業員の方々に伝授されているそうです。



国内ゲノミック評価値が自動的に活用されているのが魅力です!



種雄牛を決める際には事務所に戻り、見回り時にチェックした牛をGenFITの結果一覧で確認。授精回数に応じて推奨種雄牛3頭の中から選択し、「人工授精所 西十勝ブリーディング」に授精を依頼しています。

GenFITを始めたのは2022年4月から。その頃、地域ではゲノミック評価への関心が高まっており、三友農場も世代交代や農事組合法人から株式会社への移行などが重なったことから、新しいことを始めるには良いタイミングだと思い全頭のゲノミック検査を検討したそうです。しかしながら費用面のこと、また三友農場では最短2週齢で山間部の育成牧場に預託をしていますが、その環境が厳しく、外的要因の影響でゲノミック評価の最大のメリットである若齢時の選抜が難しい状態になるだろうと考えていたところ、事業等で実施した国内ゲノミック評価値が自動的に活用される交配相談サービスGenFITを

紹介され、始められました。現在、改良目標形質は「乳量」と「産乳成分」を設定されており、比較的遺伝率が高く、かつ総合的に改良できる形質を設定するように意識されているそうです。処理室にはGenFITの一覧表が配置され、いつでもだれでも確認できるようになっています。

また牛舎の一番目立つ場所の扉には繁殖カレンダーが貼られています。種雄牛の選定はお任せされており、西十勝ブリーディングさんが授精のない日もほぼ毎日来られ、検診などを熱心に行ってくださいそうです。

2024年6月からは牛群検定WebシステムDLとの連携も行っていますが「実はまだあまり利用できていなくて、活用方法を模索中です(笑)」とのこと。今の授精スタイルではこの一覧表が見やすく、Webページでも一覧が見られるようになればより使いやすいとのご意見をいただきました。



今日授精する牛にどの種雄牛を選べばよいか一目でわかる!

牛群検定WebシステムDLは牛群検定を実施していれば無償で利用することができるサービスです。

左ページの全道比較グラフだけではなく、地区・飼養頭数・年間乳量での比較も見られることから、牧場の強みや改善点が一目でわかります。また2024年度からは、牛群検定WebシステムDLにGenFITの結果を連携表示できるようになりました。

メイン画面の「本日の要確認牛」や「未授精牛」から個体を選択すると一覧表と同内容の最大3頭の推奨牛が表示されます。

本日の要確認牛		前日	2025/05/29	翌日	検索	個体識別番号	検索
発情調査	2頭	発情確認	0頭	再発注意	18頭	妊娠予定	4頭
乾乳予定	3頭	分娩予定	6頭	アラーム登録牛	2件		

また外部支援者として授精師や獣医師の方もアクセスでき、スマホでも見ることができ、牛舎内や外出先でもチェックが可能です。

検定成績	父母情報	遺伝情報	推奨種雄牛
更新日時	: 2025/**/** 12:00:00		
更新ユーザー	: 一般社団法人ジェネティクス北海道		
第1推奨種雄牛	JP#H1234	8.09	
第2推奨種雄牛	JP#H2468	7.90	
第3推奨種雄牛	**H54321	7.51	
コメント欄			

◀モバイル版

推奨種雄牛
更新日時 : 2025/**/** 12:00:00
更新ユーザー : 一般社団法人ジェネティクス北海道
第1推奨種雄牛 JP#H1234 8.09
第2推奨種雄牛 JP#H2468 7.90
第3推奨種雄牛 **H54321 7.51
コメント欄

◀PC版



また、良好な繁殖と生産乳量には良質な飼料も欠かせません。餌のスペシャリストの方もいらっしゃるそうで、コントラ事業に参加していないことから、理想のタイミングで播種や収穫ができることも大きいとおっしゃいます。「今すごい乳量出てます!」と話されており、牛舎にはこんもりと美味しいようなサイレージがたっぷり。一生懸命食べている牛たちや、寝そべりながら穏やかに反芻している牛たちが見られました。



規模拡大を目指しています!

数年後には規模拡大を目指されているとのこと、頭数が増えても繁殖成績を維持するために従業員の方々に技術や知識を伝えていくこと、そしてGenFITで遺伝的な改良をしつつ、それを発揮できるような管理を行うことを目標にされていました。

素晴らしい繁殖成績の裏には伝承されてきた技術があり、そしてそれを惜しみなく伝えることに注力されている鳥本さんのお姿がとても印象的でした。

お忙しい中、取材を快く引き受けてくださった鳥本様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(改良部 遺伝分析課 藤元 郁子)